



壇俳読売

矢島 渚男 選

湖畔まで道は下りや秋旱

泉佐野市 布野 寿

【評】今年秋に入っても猛暑が続く。加えて雨が少なければ水不足が深刻な地方が多い。湖の水位も大分下がっている。水際まで砂浜を踏んで、下る道が出来ていた。

コンビニの灯に来て稲子つるびたる

水戸市 加藤木よういち

【評】稲田の中にあるコンビニである。夜も煌々と明るい照明に稲子たちが集まって、交尾している。祭壇の左右に西瓜読経聞

野田市 高梨昇一郎

【評】祭壇に供えられた西瓜。それも両端に。わからないお経をきいていても気になってしょうがない。暑くて、あんな立派な西瓜が食べたいもんだと、煩惱が起る。

山門は風の入口乱れ秋

北本市 萩原 行博

大雪湊天まで届く灯の蛇行

川崎市 沼田 広美

群虫図群れて見てゐる美術展

興分寺市 野々村澄夫

残暑つづくこれでもかなほこれでもか

東京都 野上 卓

一休に倣い血を吸わせては蚊を叩く

大阪市 農本 定成

子等居りし頃には買ひし西瓜かな

葛城市 二上 三六

三陸の入り江入り江に残暑あり

出雲市 金山 陽

宇多喜代子 選

高原の駅舎一周鬼やんま

高山市 直井 照男

【評】ローカル線の小さい駅舎だろう。そこで出会った鬼ヤンマ。見えなくなったかと思うとまた出て来る。さも駅舎を一周してきたかのようである。

新涼や大きな花柄バスタオル

さいたま市 加治美智子

【評】大きな花柄模様のバスタオル。爽やかな秋、何に使ったのだろうか。たとえば、風呂上がり。バスタオルの風合いが心地良い。

恙なく今日は終りぬ水中花

横浜市 石川 幸子

【評】いろいろと多忙の一日であったが、つらつら無事に今日も終わった。そんなホッとした気分になさな水中花が寄り添って、くれているようだ。朝夕に色深めけり秋茄子

姫路市 難波 佳代

楸耶の句碑立つ宮や蟬時雨

出雲市 石川 寿樹

釣り舟の出払っている縁日和

川崎市 久保田秀司

一枚の絵はがき届く残暑かな

徳島県 曾我部幸子

産土の神域包み蟬時雨

中川市 鈴木 敬治

十五夜の暦の隙間の付箋かな

水戸市 大野太加し

木に倚れば木の声聞こゆ残暑かな

東大阪市 木田 博幸

正木ゆう子 選

おーいと声縮目に伸びて昆布干し

札幌市 田口 和子

【評】縮目に伸びているのは、干された昆布なのだが、声も伸びているような楽しい文脈。長いものは15メートルもあるという昆布の、端から端まで届く「おーい」である。

立ち読みせし本屋無事ある帰省かな

彦根市 広田 祝世

【評】町の本屋さんが減り、私が立ち読みした故郷の古書店も今は無い。大型書店でも個性的な小さな店でもない。本屋さんよ、永遠に。吾の血も仄かに葉月ちゃん誕生

鎌倉市 中江 優子

【評】葉月(八月)に生まれた葉月ちゃん。「仄かに」だから、お孫さんかあるいはもう少し遠い縁かも。仄かな血の繋がりは、素敵な表現。百日紅咲き続くも頼もしき

東京都 中村 厚郎

良薬のごとき熱き茶夜の秋

松山市 高山 洋子

流灯の遠きはかへりみるこし

東京都 望月 清彦

翡翠の歩くところをついで見ず

町田市 枝沢 聖文

体調を声音に探り合ふ残暑

松本市 石垣 立夫

祖父母生きのびて我あり震災忌

横浜市 小野寺 洋

白黒の番組多き八月来

土浦市 今泉 準一

小澤 實 選

夜業より帰りし父よ火の匂ひ

川越市 益子とし

【評】会社から夜遅く帰って来た父に近づくと、身体から火の匂いがした。宴席などで遅くなったのではなかったことが、わかる。父の顔を見て、安堵の思いも広がるのである。

孫一同とアナウンスあり揚花火

つくば市 浅田 光昭

【評】祖父あるいは祖母の長寿を祝っての揚花火である。アナウンスが告げている。花火を楽しみ、さらに長生きされることをしよう。

椎茸の傘に溜まつてゐるバター

小諸市 藤 雪陽

【評】椎茸のバター焼きである。今まさに焼き上がったところであることが、液体状のバターによって、わかる。いい匂いもしてくる。

夕かなかな西行庵は谷の底

富山市 川上 純一

秋麗やパンを反り出るソーセイジ

横浜市 岡 一夏

毎年の写真は同じ原爆展

八街市 山本 淑夫

ホリープは良姓でした秋涼し

東大和市 井上 鈴野

志功記念館存続求むねがた師ら

青森市 天童 光宏

秋風が部屋を一回りして出る

藤沢市 桜井 勇良

西瓜割りレジ袋入り西瓜握る

長野市 中里とも子

枝しおり折

山中葛子句集『愛惜』「海程」

「海原」創刊同人。2021年まで9年間の作品集。師・金子兜太を哀悼し、自らの老いやコロナを詠む。△師系ありほたるぶるは未完だといふ△(文学の森、2750円)

有川知津子歌集『ポトルシップ』

コスモス短歌会会員の第1歌集。長崎・五島列島生まれ。捕鯨船の砲手だった祖父は南極海で殉職した。△ふるさとを離れし日よりゆふわれの海のみかうはいつもふるさと△(本阿弥書店、28600円)

我妻俊樹歌集『カメフは光る』

をやめて触った。怪談作家でもあるボストンニューエープ世代歌人の第1歌集。△渦巻きは一つ一つが薔薇なのにお吸い込まれるのはいちどだけ△(書肆侃侃房、20900円)

第69回角川俳句賞

野崎海芋

「小窓」(50句)

第69回角川短歌賞

渡邊新月

「楚樹」(50首)



題字デザイン・イラスト 福田美蘭